

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 60	福山市立川口東小学校
最終更新日		2024年（令和6年）4月15日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
・多くの児童生徒が、授業や特別活動の各場面で主体的な意思決定ができ、「学校が楽しい」「学びが面白い」と感じている。 ・教師がいきいきと働いている様子が児童生徒に好影響を与えている。 ・児童生徒の実態からよりよい姿にするためにも評価指標を検討してほしい。	・「自ら考える、決める、選ぶ」を実践していると肯定的に捉える児童生徒が増加している。 ・多くの児童生徒が「学校が楽しい」「学びが面白い」と感じている。 ・言葉の理解や表現すること、数の理解に課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	・自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 ・様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
		中学校区として統一した取組等	○ 学習指導要領に立ち返り、言葉と数にこだわった授業づくりを目指した協議を継続する ○ 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。

III 自 校

ミッション
子どもたちが、主体的に未来社会を拓く力を育てる。 ・「学ぶ力」「考え表現する力」「向かう力」を育てる。
学校教育目標
夢が語れ 誇りをもち 社会に貢献できる子どもの育成
現 状

<児童生徒>
・全国学力テスト質問紙において、学年によって肯定的か否定的かが分かれる。学級状況による心理面が影響していると考えられる。
・将来への夢や希望について否定的で、学習へのモチベーションが低く、課題追求をあきらめやすい傾向にある。
・学校へ登校するのを楽しみにしており、友達との関わりに楽しさを感じている。しかし、一部の児童は学校への登校が難しい。
<授業>
・授業の中で、児童同士の考えを伝え合ったり、自己肯定感を高めたり、学ぶ楽しさを感じたりする児童が増えている。
・特別活動を中心に、自分の生活を振り返ったり、自己決定や折り合いをつける場を増やしたりすることで、学んだことを意識したり、具体的な目標を明確に持ったりして行動する児童が増えてきた。
・早寝、早起き、朝ご飯等、基本的な生活習慣が身についていない児童が多く、欠席や遅刻をする児童が多い。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題を見つける力（自己決定） 対話をする力（コミュニケーション） 認め合う態度（思いやり）	
めざす子ども像	課	明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見だし解決に向けて方法をさぐる。
	対	課題や問題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者と対話することで考えを評価したり、深めたりして互いの考えを生かし合う。
	認	自己の考えや思いについて自信を持ったり認めたり、他者の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる。
研究	テーマ	ガッツ＆スマイル ネクスト！ ～やりたいから始まる・分かるから楽しい～
	内容等	自らのゴールに向け主体的・協働的に課題解決に取り組む学びづくり ～単元の本質的なねらい、自己肯定感～
めざす授業の姿		・自ら課題を発見し、見通しを持ってチャレンジしている。 ・仲間とともに考えを深め合っている。 ・よりよい自分や集団をめざして、学び合い、自信を深めている。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立川口東小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70以上 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70以上 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	「学びが面白い」と主体的に協働しながら学習に取り組む児童を育てる。	★	継続	課題発見・解決学習を展開する。 【重点】 ①教科単元の本質・カリキュラムの見直し ②課題設定と協働的な学び ③評価の在り方 ④個別の状況に応じた多様な学習方法の選択	子どもが考えたいくなる課題設定と、伝えたいくなる授業展開・単元構成の工夫 ①教科の本質にせまる目標と観点の明確化・子どもの思考を促す「問い」を吟味した授業展開・単元構成の実施 ②授業研究で課題発見解決学習の指導法を研鑽（個人研究授業評価シート見直し） ③「付けたい力」を明確にした指導と評価の一体化 ④児童一人一人が粘り強く学習に取り組める準備	○「やりたい」「なぜだろう?」「伝えたい」と子どもが課題解決にあきらめない心でチャレンジしている。 ・「課題設定」と「練り合い」を工夫した授業展開・単元構成 【教師アンケート80%以上】 ・「わかった」「話し合いをしてよかった」と実感 【児童アンケート80%以上】 ・算数科の単元末テスト 【40%未満の児童20%未満】									
4	自己肯定感・自己有用感がもてる児童を育てる。		継続	主体的に活動することを通して、自他の表現を互いに認め合える児童を育てる。（自己肯定感）	①自己表現の場や認め合える場を設定 ②様々な場面で選択させ、適切な振り返りの習慣 ③挨拶を職員が率先して実施	○よりよい自分や集団を目指し関わり合い、自信を深めている。 ・係活動や委員会活動などに主体的に関わり、意見交流しながら活動 【児童アンケート80%以上】 ・目的に沿った振り返り次時の見通しをもつ ・自分から挨拶をする児童【児童アンケート80%以上】									
4	主体的に運動に親しみ、元気に過ごそうとする児童を育てる。		継続	運動することや体力をつけることの良さを考え、楽しみながら運動する児童を育てる。	①体力をつける良さを知る・考える場を設定する。 ②体育科を中心に多様な運動に親しめる場の工夫をする。 ③児童主体で外遊びを計画・実践する。	○様々な運動を経験し、自分に合った運動を選ぶことで、運動の楽しさを味わっている。 ・友達と考えを交流し運動の楽しさを味わい、できるようになったことがあると実感									

					できる児童 【児童アンケート80%以上】 ・体を動かすことが楽しいと感じる児童 【児童アンケート80%以上】										
4	保護者から信頼される学校にする。	継続	一人一人の児童の思いを大切に、常に丁寧な対応をする。	積極的な生徒指導を行うとともに、家庭連携を密にする。	教職員は、児童一人一人を大切に教育活動を行っている 【保護者アンケート80%以上】										

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。